

児童養護施設職員の 子どもとのかかわりにおける心的体験

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
水野 あゆみ

対人援助職者の仕事内容とかがわって、過重な負担やストレスが問題となっているが、児童養護施設職員はトラウマを被った被虐待児に対応するため共感疲労が高く、被虐待児との関係が不安定なものが多いことが明らかにされている。

援助者に対する援助（援助者援助）という観点から、本研究では児童養護施設職員に対する適切なサポート介入の可能性を探るため、児童養護施設職員の子どものかかわりにおいてどのような心的体験をしているのか、特に次の4つに主に視点を置く。子どもとのかかわりにおける心的体験の中でも、大変さ、楽しさなど日々どのような感情を抱くのか、働いている中で子どもとのかかわりにおける考え方、対応の仕方、感じ方に変化はあるのか、ネガティブな気持ちがどのように解消されるのかについて、感情コントロールやサポートとの関連、そして働き続ける中でどのような信念からその続ける力を得ているのかについて検討する。

本研究は研究1と研究2で構成されている。研究1では6名のインタビューをカテゴリー化して分析することにより上記の4つの視点から援助職者としての心的体験の全体像を、研究2では、個人の中で経験蓄積に伴う心的体験の変化過程を事例分析で明らかにする。

4施設6人の児童養護施設職員を対象に半構造化面接としてインタビューを行った。インタビューでは「これまで働いてきた中で子どもとのかかわりについて思うことについて」、「子どもとのかかわりの中での印象的なエピソード」、そのときの「子どもの反応、自分の思い、気持ち、考えていたこと」、「これまで働いてきた中で、子どもや仕事に対する考え方に変化があったかどうか」、「あったとしたらどのような変化か」、「変化の間にあったものはなにか」、「しんどさを感じたとき、困っているときに有効だと思うサポート」を中心にを行った。

研究1では6人のインタビュー内容の結果から、『職業選択』、『日々の子どものかかわりにおいて感じていること』、『子どもとのかかわりにおけるスタンス変化』、『感情コントロール』、『サポート』、『子どもとのかかわりにおいて行動の芯になっているもの』の6カテゴリーを抽出した。

児童養護施設職員の場合、心理的サポートの方向性として、サポートカテゴリーの内容から、頼れるベテランの職員に負担が集中しないよう配慮することや、「子どもの成長を願う」気持ちが働き続ける力になっていることに留意する必要がある。また、ポジティブサポートが可能となるカギは職員同士の人間関係における輪である。また、葛藤を共有できる同業集団の存在も重要である。葛藤の存在は次への工夫の準備段階でもある。